



地図帳で世界をもっと知ろう 3

奈良教育大学教授 岩本 廣美

子どもが世界への関心を急激に高めていく小学校中学年後半から高学年にかけての時期には、社会科のどの単元においても、地図帳を活用して世界を学習する場面を設定したいものです。

5学年の社会科では、内容の柱のひとつとして、わたしたちの食生活と世界との結びつきを具体的に学習することが求められています。この単元でも、『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（以下、地図帳とする）を活用することによって、世界への関心を効果的に高めることができます。地図帳には、子どもが身近な食生活をとおして自分と世界の国々との結びつきを把握できるような仕掛けが随所に盛り込まれているからです。

●食事の材料はどこからやってくる？●

日本の第1次産業に関する主題図から構成されている地図帳p.59では、子どもの興味を引きつけるために、①「食事の材料はどこからやってくる？」を用意しています。



このイラストでは、ごはんやみそ汁といった日本で一般的なメニューのほか、子どもにも人気のある、エビフライ、ハンバーグ、オムレット、フルーツヨーグルトなどを取り上げ、それぞれの中心的食材がどこから供給されているかを、都道府県名や国名で示しています。

このイラストによって、食材は国内ばかりでなく、牛肉はオーストラリアから、エビはタイからなど、外国から供給されているものも多いことがわかります。みそ汁の味付けはいうまでもなくみそで行いますが、みその主原料のだいずにはアメリカ合衆国産も使われていることがわかります。わたしたちの食生活や日本の食文化は、世界各地から輸入した食材によって支えられていることが具体的に理解できるのです。

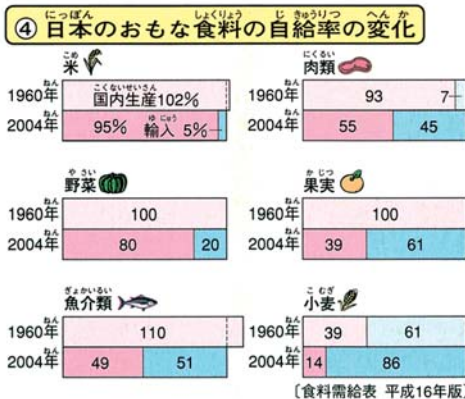
①「食事の材料はどこからやってくる？」の発展として、地図帳の世界に関する基本図や拡大図でこれらの食材の生産地を調べてみるとよいでしょう。たとえば、地図帳p.55～56の拡大図「アメリカ合衆国とそのまわり」を見ると、アメリカ合衆国各地に農産物のイラストが描かれていることに気がきます。カリフォルニア州でオレンジ、コロラド州で牛肉、ノースダコタ州で小麦、ミネソタ州でとうもろこし、そして、アイオワ州やインディアナ州でだいず、というようにアメリカ合衆国各地でさまざまな農産物の生産が盛んであることがわかります。

子どもがこれらを探して見つければ、発見の喜びを味わうとともに、①「食事の材料はどこからやってくる？」の内容の裏づ

けを取ることにになり、学習がより確実なものになっていくことは間違いありません。

●食料の自給率はどのように変化してきたか？●

では、わたしたちの食生活を支える食材の輸入の割合はどのくらいなのでしょう。また、食材の輸入は以前から行われていたのでしょうか。こうした課題を解決するのが、地図帳p.59の④「日本のおもな食料の自給率の変化」です。このグラフでは、食材群ごとに、輸入割合を現在（2004年）と過去（1960年）とで比較できるようになっているからです。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.59

6つのグラフをひとつひとつ見ていくことによって、現在の日本では、米や野菜は国内生産の割合が比較的高いのに対して、肉類、魚介類、果実は多くを輸入に頼っていることがわかります。これらの食品群のうちで果実は生産物そのままの形で食卓にのってくる場合が多いので、どのような「くだもの」を外国から輸入しているかを子どもに考えさせるとよいでしょう。バナナ、パイナップルなどが挙げられると予想されますが、なかには地図帳 p.55～56の拡大図「アメリカ合衆国とそのまわり」で見つけた農産物のオレンジを取り上げる子どもも出てくることでしょう。これは、すでに得た知識を他の資料と関連づけて応用できることであり、学習が深化したことを示すものです。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.59

学習をさらに発展させるには、p.59の③「日本各地の水産業」を扱い、「おもな水産物の輸入港」の中に成田国際空港が含まれていることに着目させるとよいでしょう。魚介類というと海の港から陸揚げされるイメージが強いはずですが、なかには飛行機で運ばれてくるものがあるという意外性に子どもはきっと驚くに違いありません。ここから、新たな学習課題が生まれることにもなるでしょう。

ちなみに、④「日本のおもな食料の自給率の変化」から、小麦を除いて、1960年時点ではほとんどの食材を国内産でまかなっていたことがわかり、このことも新たな学習課題に発展していきます。

わたしたちの身近な食事の材料をとおして、子どもが自分と世界の国々とのつながりを具体的に理解し学習できることは明らかです。こうした学習が、社会科の新しい学習指導要領が求めている5学年の「世界の主な国々」の学習を先取りすることは注目してよいことでしょう。